

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	環境行動研究小委員会	主 査 名：橋 弘志 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：山田 哲弥
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境行動研究的視点から、実際に体験される環境・場所の質を分析・評価するための理論構築を行うとともに、人と環境との豊かな関係を紡ぎ出す環境・場所の創出・維持を目指す。 ・環境行動研究に関する研究会の開催 ・居場所づくり・利用・維持・管理の方法論に関する検討 ・北欧の環境・デザインから環境行動研究の理念と実践とを融合する知見の導出 ・文献・情報源の整理とデータベース作成 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 (2016 年度に 3 名公募)	
	橋弘志 (実践女子大学)、岩佐明彦 (法政大学)、水村容子 (東洋大学)、林田大作 (大阪工業大学)、諫川輝之 (東京大学)、伊藤俊介 (東京電機大学)、大野隆造 (東京工業大学)、垣野義典 (東京理科大学)、小林健治 (摂南大学)、鈴木毅 (近畿大学)、田中康裕 (ハネウエル居場所ハウス)、西田徹 (武庫川女子大学)、前田薫子 (東京大学)、松原茂樹 (大阪大学)、山田あすか (東京電機大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>「まちの居場所」研究 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな町の居場所における人間と環境の関係をとらえる方法と理論の錬成 ・居場所環境の計画・デザイン・利用・維持・管理のための実践的な知見の抽出 <p>北欧における環境デザイン WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北欧の環境デザインを対象に、環境と社会システムを包括的に捉え、環境行動研究の実践的・理念的知見を抽出するとともに、その成果を情報発信する 	
2016 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s17/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	公開研究会「スウェーデンにおける集合住宅団地の変容と再生 ストックホルム・テンスタ地区を事例として」(人間・環境学会と共同開催) 参加者数 30 名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境行動研究に関する研究会の開催：スウェーデン王立工科大学建築学科の Erik Stenberg 先生をお招きし、2016年11月4日に公開研究会として「スウェーデンにおける集合住宅団地の変容と再生 スtockホルム・テンスタ地区を事例として」を開催した。 2. 居場所づくりの方法論に関する検討：「まちの居場所」研究WGが中心となり、昨年度から引き続き「まちの居場所をめぐる論考」の書籍の出版を目的とした編集・執筆活動に取り組んだ。 3. 環境行動研究の理念と実践を融合する知見の導出：北欧の環境デザインWGを立ち上げ、北欧をフィールドとした環境行動研究の収集、整理を行い、また情報発信のための枠組みの検討を行った。
<p style="text-align: center;">委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新たな主査・幹事としてスタートした環境行動研究小委員会の初年度であったが、委員が集まって議論する時間を十分にとることができず、議論が進まなかった経緯がある。次年度では、あらためて環境行動研究の理念的・実践的な理論構築に向けて、議論の時間を十分にとれるよう、活発な活動を進めていく。 2. 委員各自の研究展開を共有しつつ、近年の環境行動研究の事例を収集・整理し、環境行動研究の現況を把握するとともに、WGで進めている居場所づくり、北欧事例などを題材として、現代的な課題を見出していく。 3. 各WGの成果をまとめ、情報発信に努める。